

主な使用場面・領域・教科等：算数・数学／日常生活場面

## ＜図・写真＞



## ＜材料・製作方法等＞

## ＜時計部分＞

- ①Excel の円グラフ機能により 1 2 分割の円を作成し、画像化する。
- ②イラストレーションソフトにて、円グラフ画像をトレースし、領域ごとに彩色。
- ③ネット上の時計文字盤画像をイラストレーションソフトに貼り付け、目盛りをトレースし、数字を書き込む。
- ④100 円ショップの時計から針を外し、印刷した文字盤を貼り付け、秒針以外を元に戻す。

## ＜スタンド部分＞

- ⑤時計を斜めに立てることができるよう木材を加工する。
- ⑥時計裏の黒いムーブメントボックスにマジックテープを巻き付ける。スタンドにもマジックテープを貼り付ける。
- ⑦スタンドを逆さにした際に時計がスタンドから落ちず、かつ、生徒が時計をスタンドから外しやすい程度まで、マジックテープの繊維をカッターで減らす。
- ⑧スタンドを大きめの洗濯ピンチに取り付ける。ピンチ部分に「お湯まる」を付け、テーブルとの接触面の拡大と滑り止めとする。

## ＜ねらい＞

自分だけの時計を持つことによって時計への関心を高めつつ、生活の中で時計に目を向ける機会を自然と多く持たせることにより、時計の読み方に関する学習を日常的に行えるようにする。

## ＜指導方法・留意点等＞

- ① 提供してしばらくは時計自体を見慣れることが目標。(他者から時刻を尋ねられ、正しく答えられないことによる失敗体験でマイナスイメージを持たないように)
- ② 授業の理解度に応じ、「時」だけの読み取り、「分」までの読み取りなど、段階的に活用する。
- ③ 分の数字は小さいため、手に取って近距離で見られるよう、スタンドから外せるようにした。

## ＜指導経過・成果・課題・展望等＞

短針の位置によっては次の時を読んでしまうことがほとんどなため、各時を区切り、色分けすることで領域としての認識を持ち、微妙な位置でも間違わないように、ルーレットやワークシート等を用いて学習した。

正しい順に数唱すること、幾つかの数字の読み、二桁の数の読みが理解不十分な生徒であるため、時計の学習を行う中で、数唱や数字を見て読む力も少しずつ向上していくものと考えられる。

食事や移乗の際にテーブルから外され、そのままになっていることが多い。生徒が腕時計のようにいつでも時計を見ることができるようになるには、スタッフの理解と協力が必要であるため、本人から「時計を付けてください」と依頼できるようになってほしいところでもある。